

氏名	龜 山 英 之
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	甲 第 8 9 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和37年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科外科系外科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学 位 論 文 題 目	制癌剤の担癌体に及ぼす影響に関する研究
論 文 審 査 委 員	教授 陣内伝之助    教授 砂田輝武    教授 児玉俊夫

### 学 位 論 文 内 容 要 旨

胃癌根治術前に制癌剤の1剤投与法を行い、その副作用防止対策として輸血および輸液を併用したところ、自他覚的副作用はかなり軽減される。そして制癌剤2剤投与法を行うと、輸血および輸液の処置を行わなくても副作用はかなり軽減され、これらの処置を行うと更に副作用は軽減されることを知った。次に胃癌の術前、術後、術前後に Mitomycin C を投与し、胃癌患者の血清鉄の消長と自他覚的症状改善とを観察したところ、血清鉄の消長は自他覚的症状改善を比較的忠実に表現し、血清鉄量が制癌効果の判定に役立つことが判明した。次に担癌ラットに対する Mitomycin C の影響を血清鉄コロイド<sup>59</sup> Fe を用いて検討したところ、Mitomycin C を投与しない担癌ラットに比べて、投与した担癌ラットでは網内系機能が改善されることが判った。更に制癌剤にパントテン酸製剤、必須アミノ酸製剤、ビタミンB<sub>12</sub>、ビタミンKを併用したところ、制癌剤のみ投与した場合よりも網内系機能は更に改善されることが明らかになった。

(昭和37年7月30日発行 岡山医学会雑誌 第74巻4, 5, 6, 7合併号に発表)

## 論文審査の結果の要旨

亀山英之提出の「制癌剤の担癌体に及ぼす影響に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

制癌剤投与による副作用が同時に輸血輸液を十分行うことによって著しく軽減され、さらに2種の制癌剤併用投与の場合には輸血輸液により一層副作用が軽減されることを胃癌患者について立証した。

次いで、胃癌患者の術前にマイトマイシンC (MC) を投与したものは投与しないものよりもかえって血清鉄量が増量している事実を認め、一方動物実験でも、正常ラッテにMCを投与したものおよび担癌状態にしたのみでMCを投与しないものでは網内系機能が低下するが、担癌ラッテにMCを投与したものではむしろ網内系機能が改善されて正常に近づくことを立証しえた。さらに網内系機能を亢進せしめる物質としてパントテン酸、必須アミノ酸、ビタミンB<sub>12</sub>、ビタミンK等を制癌剤と併用すれば、一層腫瘍の縮小を来し、フェリチン及びヘモグロビンへの<sup>59</sup>Feの生合成も促進され、網内系機能も改善されることを知り、制癌剤術前投与の利点を理論的に解明したすぐれた研究である。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。